

通し番号	記入不要
------	------

分類番号	R05-54-21-05
------	--------------

本県における永年草地で利用する寒地型イネ科牧草では、トールフェスクは最も多収であり、オーチャードグラスは雑草混入率が低い

〔要約〕 本県における寒地型イネ科牧草 3 草種 4 品種の地域適応性について検討した。各草種の収穫期は、トールフェスクが早く、リードカナリーグラスは遅かった。トールフェスクを刈取高10cmで収穫すると、3年間の合計乾物収量は4,706kg/10aと最も多収となった。オーチャードグラスを刈取高10cmで収穫すると、雑草混入率を低く草地を維持することができた。

畜産技術センター・企画指導部・企画研究課

連絡先 046-238-4056

〔背景・ねらい〕

本県における寒地型イネ科牧草を利用した永年草地の省力的自給飼料生産体系を開発するため、寒地型イネ科牧草の地域適応性について検討する。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 寒地型イネ科牧草の 3 草種 4 品種（表 1）を供試し、造成から 3 年間の生育および収量性を調査した。
- 2 各草種の収穫期は、トールフェスクは最も早く、1 番草は 4 月中旬、4 番草は 7 月中旬から 8 月中旬であった。リードカナリーグラスは最も遅く、1 番草は 5 月中旬、4 番草は 9 月中旬であった。オーチャードグラスはどちらの品種も 1 番草は 4 月下旬、4 番草は 8 月下旬であった（表 2）。
- 3 3 年間の乾物収量の合計は、刈取高 10 cm では 3,254～4,706 kg kg/10a、刈取高 15cm では 3,396～3,876kg/10a であった。トールフェスクの刈取高 10 cm では、4,706 kg/10a と最も多収となった（図 1）。
- 4 乾物当たりの雑草混入率は、刈取高では 15 cm は 10cm より低く、草種ではオーチャードグラスは低く、リードカナリーグラスは高かった（図 2）。
- 5 以上のことから、トールフェスクを刈取高 10 cm で収穫すると多収となり、オーチャードグラスを刈取高 10 cm で収穫すると雑草混入率が低く草地を維持することができた。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 試験区は 8 m²（2 m×4 m）を 1 区画として各品種ともに 4 区画を設置し、そのうち 2 区画ずつを刈取高 10 cm および 15 cm で収穫した。
- 2 収穫は、出穂期または枯死が目立つようになった時点に、刈取高 10 cm または 15 cm で刈取りして、毎年 4 番草まで行った。

〔具体的データ〕

表 1 供試草種・品種

草種	品種
オーチャードグラス	ナツミドリ
オーチャードグラス	ポトマック
トールフェスク	サザンクロス
リードカナリーグラス	パラトン

表2 各品種の収穫日

草種	刈取高	収穫日 ¹			
		1番草	2番草	3番草	4番草
オーチャードグラス (ナツミドリ)	10cm	4/29	6/8	7/9	8/31
	15cm	4/30	6/4	7/9	8/31
オーチャードグラス (ポトマック)	10cm	4/24	6/2	7/6	8/30
	15cm	4/25	6/1	7/6	8/30
トールフェスク (サザンクロス)	10cm	4/20	5/16	6/25	8/14
	15cm	4/19	5/11	6/17	7/21
リードカナリーグラス (パラトン)	10cm	5/14	6/18	7/29	9/19
	15cm	5/13	6/15	7/26	9/19

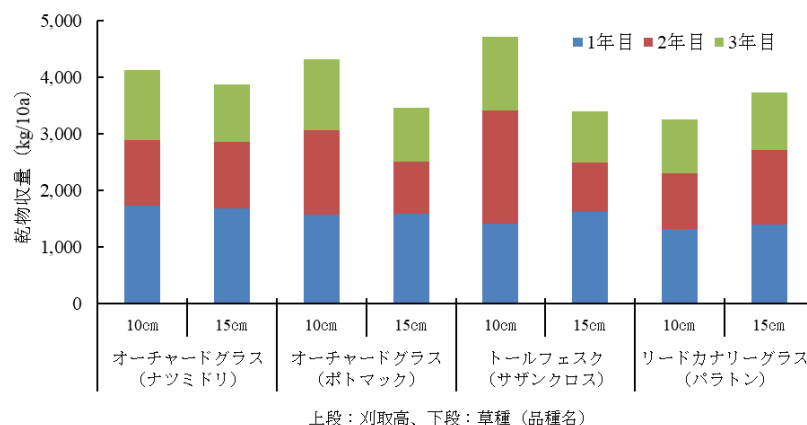
¹3年間の平均日

図1 3年間合計の乾物収量の比較

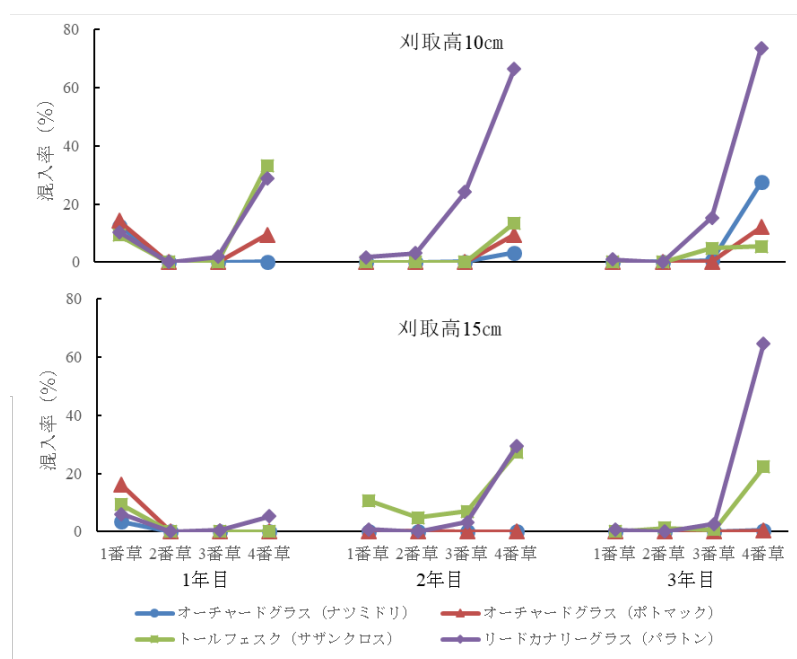


図2 乾物当たりの雑草混入率の推移

[資料名] 令和5年度試験研究成績書

[研究課題名] 神奈川県における寒地型イネ科牧草の適応性の検証

[研究内容名] ア 神奈川県における寒地型イネ科牧草の適応性の検証

[研究期間] 令和3～5年度

[研究者担当名] 若島亜希子、浅川 祐二、湯本森矢